



DSD

ディーエスダンパー

DoubleTM
Support
Damper



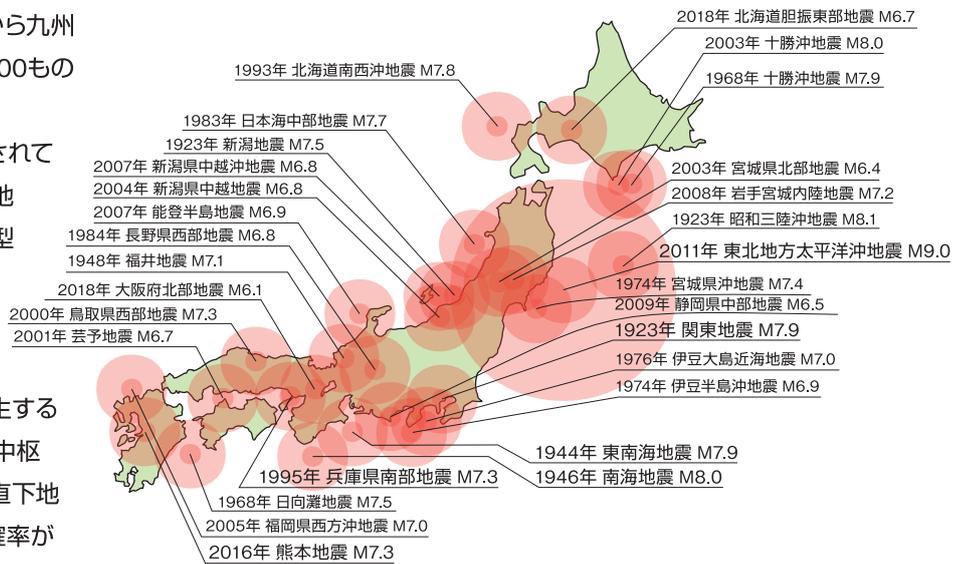
いっどこで発生してもおかしくない大地震

30年以内の発生確率が1%未満と予想されていたにもかかわらず発生した熊本地震。

地震多発国の日本には、北海道から九州まで、わかっているだけでも約2,000もの活断層があります。

近い将来の発生の切迫性が指摘されている大規模地震には、南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震、中部圏・近畿圏直下地震があります。

中でも、関東から九州の広い範囲で強い揺れと高い津波が発生するとされる南海トラフ地震と、首都中枢機能への影響が懸念される首都直下地震は、今後30年以内に発生する確率が70%と予想されています。

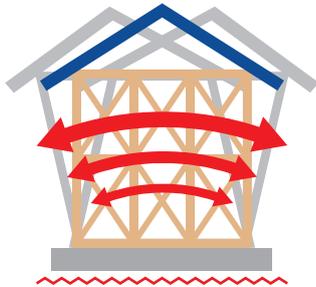


※地震被害リスクをわかりやすく図示したものです。実際の規模・被害とは厳密には一致しません。

繰り返しの地震に強い = 耐震 + 制震住宅

耐震住宅

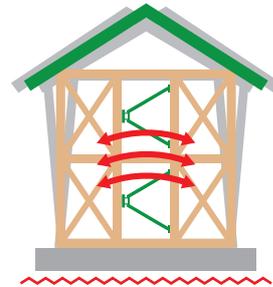
強度を高めて揺れに耐える



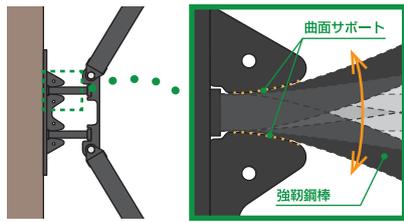
耐震工法とは、筋交いや面材によって強度を高めて地震の揺れに耐える工法です。固定箇所は地震を受けるたびにどんどん緩んでいくため、全体のバランスが取れていなければ弱いところに緩みが集中し全体損傷につながります。

耐震 + 制震住宅

制震装置が揺れを制御する

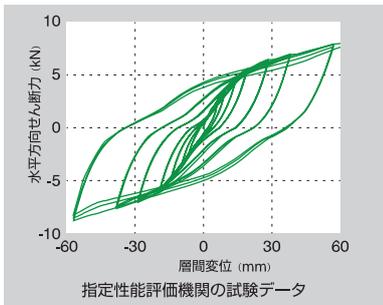


制震工法とは、地震エネルギーを吸収する制震装置によって建物の変形を抑える工法です。変形を抑えて建物本来の耐震性能を維持するため繰り返しの地震に対して高い効果を発揮します。



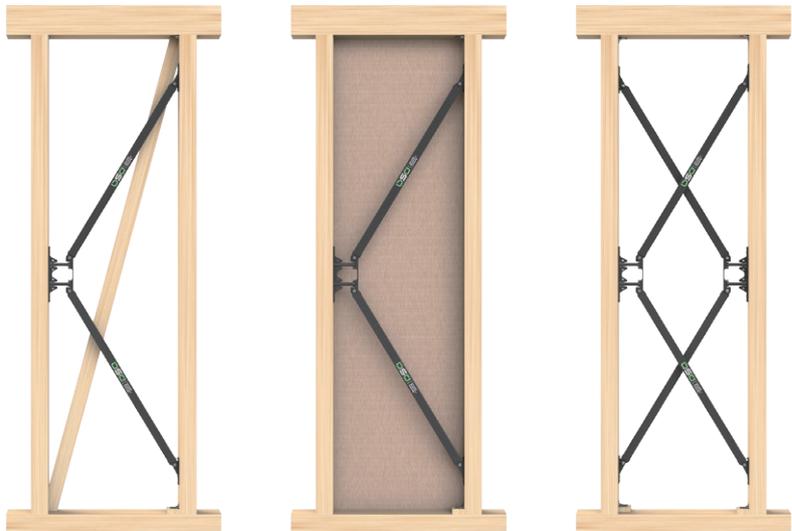
曲面サポートが強靱鋼棒の変形をコントロール
理想的な曲線が地震エネルギーを分散吸収

ポイント1 国土交通大臣認定取得 壁倍率 3.0倍・3.4倍



横架材間内法(mm)	壁倍率
2,475 ~ 2,699	3.0倍
2,250 ~ 2,474	3.4倍

※引抜金物は壁倍率で算出される大きさとなります。それ以上の割り増しはありません。



筋かいや耐力面材との併用可能

ダブル設置で壁倍率×2倍

※外壁面には使用できません。

※使用する金物に関しては、営業担当にお問い合わせください。

ポイント2 「快適」な家づくりのための薄型設計



ディーエスダンパー™は、断熱材の設置空間の確保を目的にしたわずか30mm※1の薄型設計です。

断熱性能を犠牲にすることなく「安全」で「快適」な家づくりを可能にします。

※1：金物及びボルトを除く

ポイント3 夏冬の気温差でも安定した制震性能を発揮



ディーエスダンパー™は、夏冬の気温差や、地震の加速度によって性質が変化するゴムやオイルを使わず、すべて金属パーツによって構成されているため、環境に左右されず常に安定した性能を発揮します。

■ディーエスダンパー™構成パーツ

- ① DSD 本体 1
- ② 鋼管 2
- ③ 接合金物 2
- ④ ボルト 4
- ⑤ ビス 33
- ⑥ コーナー金物 2



🔍 ディーエスダンパー 検索 🔍



スマートフォンの方
右のQRコードを読み込んで
ください。

